

題材名：リズムでノリノリ

「拍の流れによってリズムを感じ取ろう」

男子19名 女子22名 計41名

指導者 山根 絢未

題材について

○ 題材観

本題材は、小学校学習指導要領第3学年及び第4学年、「A表現」の指導事項(1)「イ 歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。」、(2)「エ 互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること」の内容を受けて設定したものである。

本題材では、思いや意図をもち、旋律の特徴に合ったリズム伴奏の組み合わせを考え、ラテン音楽の特徴を捉えた表現を工夫することをねらいとしている。児童が授業でラテン音楽に触れるのは本題材が初めてである。ここでは、ブラジル出身のバホーズが作曲した「ブラジル」と西インド諸島民謡の「いろんな木の実」の2つの楽曲を扱う。参考曲として用いる「ブラジル」は、サンバを基調としており、陽気な旋律に合わせてラテン打楽器の音色やリズムの特徴を感じ取りやすい楽曲である。「いろんな木の実」は、のんびりした感じの旋律(A)と弾んだ感じの旋律(B)から成り、A-B-A'の3部形式の楽曲であり、旋律の特徴を感じ取りやすく、リズム伴奏の組み合わせを考えるのに適していると考えられる。楽器は、ラテン楽器のギロ、マラカス、クラベス、カバサ、コンガ、ボンゴ、カウベル、モンキータンブリンの8つの楽器を扱う。そして、それぞれの楽器の特徴に合ったリズムを知り、正しい演奏方法を学んでいく。その上で、思いや意図をもち、リズム伴奏の重ね方を個人やグループで考えて演奏していく。このようなことから、拍の流れによって声や音を重ねることの楽しさを味わい、ラテン楽器の重ね方に変化をつけると曲の感じが変わるという表現の工夫を学ぶことができると考える。

○ 児童観

本学級の児童は、音楽科の授業が好きだという児童が多く、旋律に合った表現で歌ったり、友達の音を聴きながらリコーダーを演奏したり意欲的に参加している姿が多く見られる。一方で、歌うことやリコーダーを演奏することに苦手意識をもっており、意欲的に参加できていない児童もいる。

児童にアンケート調査を行い、「拍の流れを意識して歌ったり演奏したりしている」という項目では、肯定的評価が75%であった。「決められたリズムを演奏することが楽しい」という項目では、肯定的評価が82%という結果であった。否定的評価をした児童は理由として、「リズムがわからない」「リズムをたたくのは楽しくない」という回答をしている。アンケート結果から、拍の流れを意識できていない児童、リズム演奏をすることは楽しいがリズム譜をよむことができない児童、リズム演奏自体が楽しくないと思っている児童がいることが分かった。

思いや意図をもつことに関しては、児童はこれまでに決められた音を選んで副次的な旋律をつくる学習をしている。思いや意図をもっているが、言葉で表現することに課題が見られる児童がいた。

○ 指導観

毎時間の授業の導入では、リズム遊びを取り入れ、様々なリズムに親しませて、リズム伴奏をするときにつまずかないようにしたい。

課題の設定では、参考曲として「ブラジル」を聴かせ、ラテン音楽の特徴やラテン楽器の音色についての特徴を捉えた後、リズム伴奏のない「いろんな木の実」の音源を作成したものを聴かせる。そうすることで、児童からリズム伴奏を付けたいという願いを引き出し、題材のゴールを設定する。

歌唱の活動では、旋律の特徴に気付かせ、旋律ごとに色分けをして、視覚的にA-B-A形式であることを分かるようにし歌い方も工夫させたい。

器楽の活動では、児童が意欲的に授業に参加できるように、8つのラテン楽器を扱い、興味関心を高めていきたい。リズム伴奏は、「じいちゃんばあちゃん」「ひまわり」等、身近な言葉をリズムに当てはめて、リズムがよめない児童にもリズムが分かるようにしたい。リズム伴奏の重ね方を考える学習では、グループごとに拡大楽譜と楽器カードを用意して、どの重ね方が良いのか試行錯誤できるようにする。他のグループと聴き合う際は、「音の重なり」、「音色」、「リズム」の3つの視点を示し、自分達のグループとの違いを見付けながら聴かせる。重ね方の思いや意図も交流させて、様々なラテン楽器の音色の重なりによる曲の感じの変化を味わわせ、表現の工夫について学ばせたい。

ここで取り扱う共通事項は、「音色」、「リズム」、「旋律」、「音の重なり」、「拍の流れ」とする。

題材の目標及び内容について

- ラテン音楽に関心をもち、ラテン音楽の特徴を感じ取りながら、聴いたり表現したりしようとする。
【関心・意欲・態度】
- リズム、旋律、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、リズム伴奏をどのように重ねるのかについて自分の考え、思いや意図をもっている。
【音楽表現の創意工夫】
- ラテン打楽器の演奏方法を知り、友達の歌声やラテン打楽器の音を聴きながら、リズム伴奏を演奏することができる。
【音楽表現の技能】

単元の評価規準

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
①ラテンのリズムの特徴を感じ取りながら、聴いたり表現した学習に進んで取り組もうとしている。 ②ラテン打楽器の音色やリズムと音の重なりが生み出す曲想を感じ取りながら、自分の音を合わせて演奏する学習に進んで取り組もうとしている。	①旋律の特徴や拍の流れを感じ取りながら、旋律に合ったリズム伴奏の組み合わせ方について思いや意図をもち、どのように演奏するかについて考えている。 ②他のグループと自分のグループのリズム伴奏の音の重なりを比較し、その働きが生み出すよさを感じ取りながら、どのように表現するかについて思いや意図をもっている。	①ラテン打楽器の演奏法を知り、正しいリズムで演奏している。

単元で育成したい資質・能力

	A	B
【主体性】	<ul style="list-style-type: none"> ラテン音楽のリズムの特徴を感じ取りながら、拍の流れにのって聴いたり表現したりする学習に進んで取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ラテン音楽のリズムの特徴を感じ取りながら、聴いたり表現したりする学習に進んで取り組もうとしている。
【思考力】	<ul style="list-style-type: none"> 旋律に合うリズム伴奏の組み合わせ方について思いや意図をもち、どのように演奏するかについて考えている。 他のグループと自分のグループのリズム伴奏の組み合わせを比較し、音の重なり、音色、リズムについての違いを見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 旋律に合うリズム伴奏の組み合わせ方について思いや意図をもち、どのように演奏するかについて考えている。 他のグループと自分のグループのリズム伴奏の組み合わせを比較し、音の重なりについての違いを見付けている。
【自己理解】	<ul style="list-style-type: none"> 自分のグループで考えたリズム伴奏の組み合わせや、他のグループが考えたリズム伴奏の組み合わせのよさや面白さに気づき、その後の学習に生かそうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のグループで考えたリズム伴奏の組み合わせや、他のグループで考えたリズム伴奏の組み合わせのよさや面白さに気付いている。

指導と評価の計画

全6時間

次	時	学習内容	評 価				
			関	創	技	評価規準	評価方法
一	1	<p>課題の設定（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ラテン音楽の特徴を知り、題材の学習計画を立てる。 ・「ブラジル」を鑑賞し、ラテン音楽の特徴や使われている楽器、リズム伴奏の特徴を見付ける。 ・リズム伴奏の入っていない「いろんな木の実」を聴き、この楽曲で学習していきたいことを考える。 ・「いろんな木の実」に旋律に合ったリズム伴奏を付けるという題材の学習計画を設定する。 ・ゴールの見通しをもち、学習計画を立て、題材で付けた力について考える。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ラテンのリズムの特徴を感じ取りながら、聴いたり表現したりする学習に進んで取り組もうとしている。【関①】〔リズム〕〔音色〕〔旋律〕 	<p>行動観察 発言</p>

次	時	学習内容	評 価				
			関	創	技	評価規準	評価方法
二	2	情報の収集・整理・分析（2） ○「いろいろな木の実」の旋律の特徴をつかみ、ラテン楽器の音色に親しむ。 ・2つの旋律があることに気づき、旋律に合わせた歌い方について考える。 ・ラテン楽器（ギロ・マラカス・クラベス・カバサ・ボンゴ・コンガ・カウベル・モンキータンブリン）の演奏の仕方を教師の師範やDVDで確認し、正しいリズムを演奏する。			○	・ラテン打楽器の演奏法を知り、正しいリズムで演奏している。【技①】〔リズム〕〔音色〕	行観観察 発言
	3	○正確なリズム伴奏ができるように練習する。 ・各グループでリズム伴奏に使いたい楽器を4つ選ぶ。 ・選んだ楽器のリズム伴奏を正しく演奏できるように練習する。			○	・ラテン打楽器の演奏法を知り、正しいリズムで演奏している。【技①】〔リズム〕〔音色〕	行動観察 発言
	4	創造・表現・（1） ○「いろいろな木の実」の旋律に合うリズム伴奏の組み合わせを考え、グループで交流する。 ・思いや意図をもち、個人で「いろいろな木の実」の1番のリズム伴奏の組み合わせを考える。 ・各グループで個人が考えたリズム伴奏の組み合わせを歌と合わせて演奏して交流する。		○		・旋律の特徴や拍の流れを感じ取りながら、旋律に合ったリズム伴奏の組み合わせ方について思いや意図をもち、どのように演奏するかについて考えている。【創①】〔リズム〕〔音色〕〔音の重なり〕〔拍の流れ〕	行動観察 ワークシート
	5	創造・表現・まとめ（1.5） ○他のグループの演奏を参考に、更に表現を工夫したいところを考える。 ・自分のグループと他のグループの相違点を見付けながら気づきを交流する。 ・他のグループの発表を基に、更に表現の工夫をしたいところを考え、グループで練習する。 【本時】		○		・他のグループと自分のグループのリズム伴奏の音の重なりを比較し、その働きが生み出すよさを感じ取りながら、どのように表現するかについて思いや意図をもっている。【創②】〔リズム〕〔音色〕〔音の重なり〕〔拍の流れ〕	行動観察 ワークシート
	6	○グループごとに「いろいろな木の実」を自分達が考えた重ね方のリズム伴奏を入れて発表をする。 ・グループごとに重ね方を考えたリズム伴奏を入れた「いろいろな木の実」を歌と合わせて演奏する。 振り返り（0.5） 学びのモニタリング ○自らの学びや学び方を振り返る。 ・単元の初めに立てた「ゴールの見通し」の視点で、自らの学びを振り返る。	○			・ラテン打楽器の音色やリズムと音の重なりが生み出す曲想を感じ取りながら、自分の音を合わせて演奏する学習に進んで取り組もうとしている。【関②】〔リズム〕〔音色〕〔音の重なり〕	行動観察 ワークシート

本時の学習

(1) 本時の目標

- 他のグループと自分のグループのリズム伴奏の音の重なりを比較し、その働きが生み出すよさを感じ取りながら、どのように表現するかについて思いや意図をもつことができる。

(2) 本時の評価規準

- 他のグループと自分のグループのリズム伴奏の音の重なりを比較し、その働きが生み出すよさを感じ取りながら、どのように表現するかについて思いや意図をもっている。

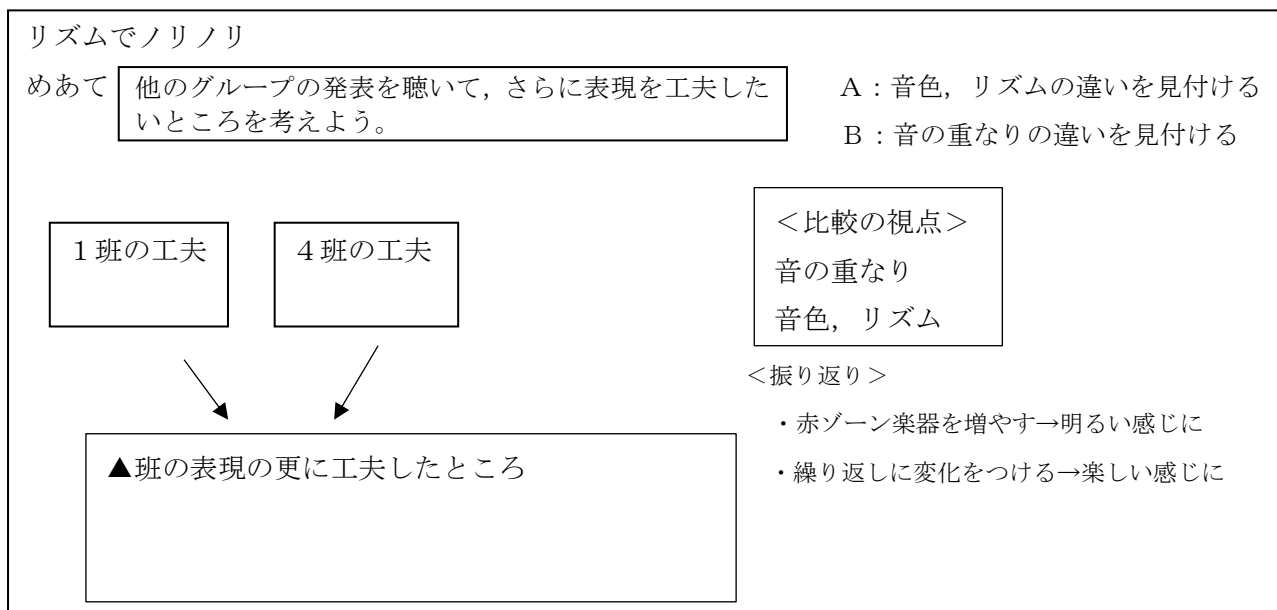
【音楽表現の創意工夫】

(3) 本時の学習展開（5時間目／全6時間）

学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応 □思考の場の工夫	◇指導上の留意事項 ★めざす児童の姿 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準〔観点〕 (評価方法) ◎本時で付けたい力
1 本時の学習課題を確認する。 めあて _____ 他のグループのリズム伴奏の発表を聴いて、更に表現を工夫したいところを考えよう。	◇前時までの学習の振り返りをする。	
本時のゴールの見通し A: リズム・音色についての違いも見付けて更に表現を工夫したいところを考える。 B: 音の重なりについての違いを見付けて、更に表現を工夫したいところを考える。		
2 他のグループの発表を聴いて自分のグループと違うところを比較する。 ○ 自分のグループと違うところはどこですか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> □思考の場の工夫 比較する 自分のグループと違うところを楽譜に印を付けて、どのように違うのか書き込む。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 赤の旋律の楽器の数が違う → 赤の旋律の部分の楽器が多いと、より楽しそうに聞こえた。〔音の重なり〕 ・ 繰り返しがある旋律の楽器の数が違う → 同じ旋律の繰り返しは楽器の数に変化をつけたら飽きない。〔音の重なり〕 ・ リズム伴奏の楽器の音色が違う → クラベスの音は高いので、クラベスを入れると音楽が明るく聞こえる。〔音色〕 	◇聴く視点と比較する視点は〔音の重なり〕,〔リズム〕,〔音色〕の3つであることを伝える。 ◇発表するときは、工夫したところを知らせた上で演奏を始めるようにする。 ◇発表するグループは意図的指名をする。 ◇自分のグループと違うところや気づきをワークシートに書く時間を確保する。 ◆楽器の音を聴き取ったり、違いを見付けにくい児童のために、他のグループの楽器カードを貼り付けた楽譜をテレビに映したり、拡大楽譜を実際に見せたり、視覚的に楽器の組み合わせ方が分かるようにする。 ◇自分のグループのリズム伴奏の楽譜のコピーを一人ひとりに用意する。	

学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応 □思考の場の工夫	◇指導上の留意事項 ★めざす児童の姿 ◆「努力を要する」状況と判断した 児童への指導の手立て	評価規準〔観点〕 (評価方法) ◎本時で付けたい力
<p>3 他のグループの発表で参考になったことを基に、自分たちの演奏に取り入れ、練習する。</p> <p>4 表現を工夫したところの振り返りを行う。 ○何をどのように変えてどのように音楽が変わりましたか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>★目指す児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤の旋律の楽器の数を増やしました。赤の旋律の部分の楽器を増やし、音の重なりを厚くしたら、より明るい感じになりました。 ・Aの旋律の繰り返しの部分の楽器の数を増やしました。2回目に楽器を増やして音色に変化をつけたら、変化をつけた方が楽しくなりました。 </div>	<p>◇楽器の音の重なりが良く分かるように、少人数教室と音楽室に分かれて練習する。</p> <p>◇教師が意図的に1つのグループを発表させ、リズム伴奏を見直す前の演奏を映像で流して比較し、変化を交流する。</p> <p>◇振り返りの視点として、〔音の重なり〕〔音色〕,〔リズム〕の3つのキーワードの中から一つは入れて振り返りを書くことを伝える。</p> <p>◇次時は、グループごとに発表して、振り返りを行うことを伝える。</p>	<p>◎ 他のグループの演奏を基に、旋律に合ったリズム伴奏の組み合わせ方を考え、どのように演奏するのか思い、意図をもっている。〔音楽表現の創意工夫〕(ワークシート・行動観察)</p>

(4) 板書計画



学びのモニタリング

リズムでノリノリ

「拍の流れによってリズムを感じ取ろう」

四年 組 ()

主体性・・・チャレンジする力

ラテン音楽の特徴を感じ取りながら、聴いたり表現したりする学習に意よくをもって取り組んだか。

5
4
3
2
1

思考力・・・しっかり考える力

旋律の特徴に合ったリズム伴奏の重ね方を考えたり、他のグループの発表から、さらに表現の工夫を考えたりしたか。

5
4
3
2
1

自己理解・・・自分のよさや成長に気付く力

自分や友達と考えたリズム伴奏の重ね方のよさや面白さに気付けたか。

5
4
3
2
1

学習をふり返って

これからの学習で生かしていききたいと思うこと